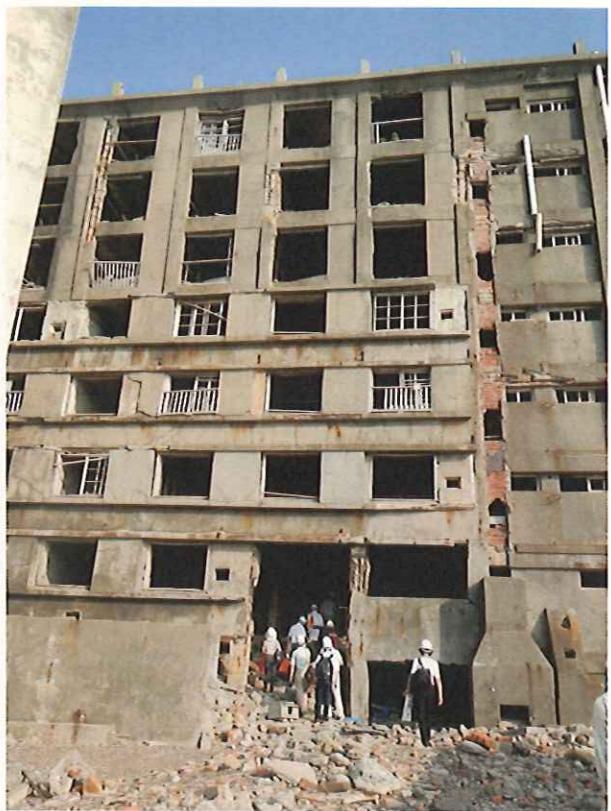


現況写真 ⑩ 30号棟



1916年（大正5年）建築の鉄筋コンクリート造集合住宅。  
7階建てで平面図は口の字の形をしており、階段が屋上まで続いている。  
鉄筋コンクリートのフレームに、木造棟寄長屋を組み込んだような独特の  
形状となっている。  
既に築100年近くが経過しており、劣化がかなり進行している。

- 16 -

現況写真 ⑪ イコモス調査ルート補修箇所 その1



雨水による吸出しが原因と思われる通路陥没箇所。イコモス調査までに埋戻し予定。

- 17 -

現況写真 ⑫ イコモス調査ルート補修箇所 その2



落石が原因と思われる通路の穴あき箇所。イコモス調査までに仮設通路を設置予定。

- 18 -

現況写真 ⑬ 第3豊坑跡



第3豊坑は、端島内の4か所の豊坑跡の一つで、1894年（明治27年）に掘削を開始し1896年（明治29年）に開坑。深さは198mに達し、1936年（昭和11年）に廃坑となった。

平成26年度に発掘調査を予定している（閉塞されている坑口内の状態調査）。

（参考）

第1豊坑：明治20年開坑、明治30年廃坑。深さ36m

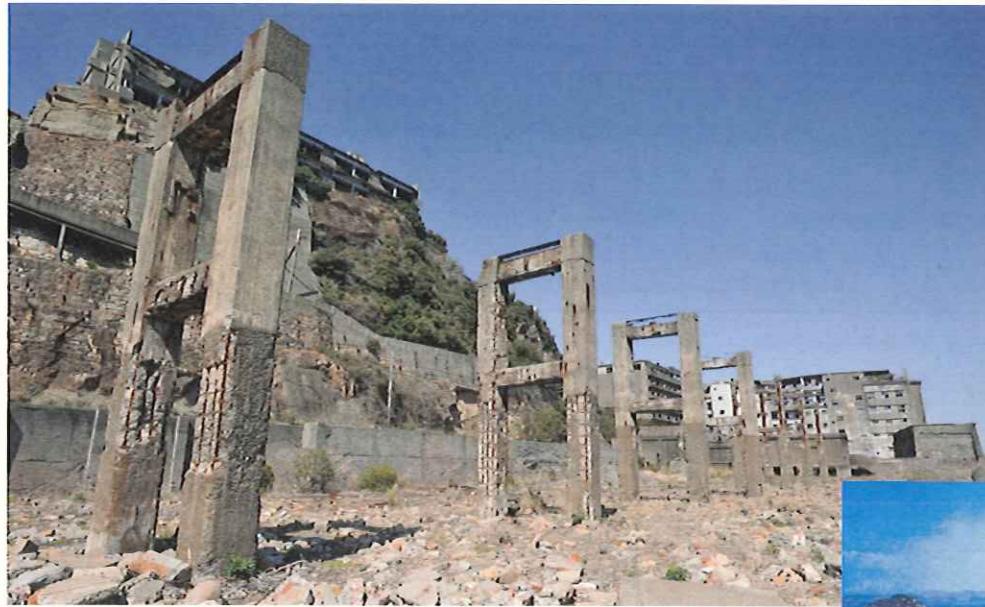
第2豊坑：明治28年開坑、昭和49年廃坑。深さ606m

第4豊坑：大正14年開坑、昭和49年廃坑。深さ349m



- 19 -

現況写真 ⑭ 貯炭ベルトコンベア付近



選炭後の製品炭は貯炭場に蓄えられ、石炭運搬用のベルトコンベア、積込桟橋を経て石炭運搬船で出荷されていた。

また、ベルトコンベアは地上部以外に地中にも掘られていた。

ボタと呼ばれる残土や石などは、端島の中心部岩礁と東側の居住施設（31号棟）を貫通したボタ捨コンベアを使って海中投棄されていた。

端島閉山以降、生産施設の設備類は島外へ搬出されたが、発電のための動力施設や坑内空調のための換気施設などの建物は一部が現存している。

- 20 -

現況写真 ⑮ 70号棟基礎部分



過去の台風により建物の基礎部分が波で洗い流され、コンクリート製杭基礎が一部滅失、破断している。

建物崩壊の危険性があるため、補修の緊急性が高い。

現在も潮の干満に呼応して、護岸内側の水位の上下動が認められる。



- 21 -

## 9. スケジュール

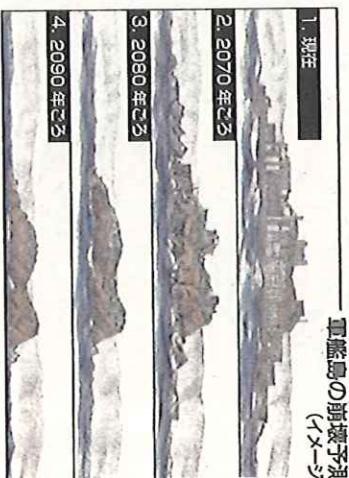
- 22 -

修復しないと風化

後藤長崎大名誉教授が予測



(テラトープ研究所・松本清氏作成)



軍艦島の崩壊予測

# 重艦島 70年「いろ崩壊」